

2020年  
—



# 世界栄養報告

栄養不良の根絶に向けて：  
衡平性を実現するための行動



エグゼクティブサマリー



# エグゼクティブ サマリー

2015年 インド・グジャラート州  
インフォーマルセクターの貧しい女性自営業者を支援する労働組合代表者Padmaが、母親たちに栄養プログラムを指導  
写真: Paula Bronstein/Getty Images/Images of Empowerment

# 栄養不良の根絶に向けて： 衡平性を実現するための行動

『世界栄養報告』は各国政府、企業、市民社会に対して、あらゆる形態の栄養不良の問題への取り組みを強化し、食料システムおよび保健医療システムのさまざまな不公正に対処するよう求めます。

健康的で手頃な価格の食料と良質な栄養ケアは誰もが利用できるべきものです。しかしそれを妨げる根深い格差が、日常生活環境を構成する不当なシステムやプロセスから生じています。本年の『世界栄養報告』では、この不衡平な事態を栄養の衡平性の概念を用いて説明し、それがいかにして健康的な食事と暮らしへの機会や障壁を決定づけ、栄養面での格差を生んでいるかを明らかにします。また衡平性の観点から、世界的な栄養不良の問題を検証し、栄養格差についての理解を深めます。それによって、あらゆる形態の栄養不良を根絶する取り組みを拡大し、進捗を促進するための重要施策を特定して、優先順位付けを行います。

『世界栄養報告』は、強力な資金動員とアカウントビリティにもとづいて、栄養を食料システムおよび保健医療システムの主流に組み込む衡平性重視のアジェンダを求めます。2025年国際栄養目標の達成まで、残された時間はわずか5年です。そのため、最大限のインパクトを生み出すには、最も必要性の高い分野の行動に重点をおく必要があります。

## 世界的な栄養不良の問題

今日の世界の人口は、9人に1人が飢えに苦しみ、3人に1人が過体重または肥満の状態にあります。そしてますます多くの国が、低栄養と過体重・肥満・その他食生活に関連した非感染性疾患（NCDs）の併存という、栄養不良の二重負荷を抱えるようになっていきます。

傾向は明白であり、国際目標の達成に向けた進捗はあまりにも遅れています。2025年までに10の国際栄養目標のすべてを達成できそうな国は皆無であり、194か国中8か国のみが4つの目標を達成予定であるにすぎません。5歳未満の子どものほぼ4分の1が発育阻害であると同時に、過体重・肥満人口が世界のほぼすべての国で急増しており、その勢いが緩む気配はありません。

栄養不良問題への対応の進捗は単に遅れているばかりでなく、きわめて不公正でもあります。最近の分析によれば、世界や国レベルのパターンでは見えてこない深刻な格差が各国・各コミュニティの内部にあり、最も脆弱な集団が最も深刻な影響を受けています。栄養の状態は各国間でも大きく異なります。最貧国では低体重問題が続いており、その割合は富裕国の10倍です。一方、富裕国では、過体重と肥満が貧困国と比べて最大5倍の勢いで拡大しています。

また各国の内部でも居住地、年齢、性別、教育水準、財力によって著しい格差が見られ、さらに紛争やその他の形態の脆弱性が問題を一層悪化させています。本報告書では、都市・地方間の明白な格差や、それ以上に大きいコミュニティ間の格差を明らかにしています。5歳未満の子どもの場合、各国の特定のコミュニティでは他と比べて消耗症が最大9倍、発育阻害は4倍、過体重・肥満は3倍多く見られます。

乳幼児の食事方法と家庭の特質との間には明らかな関連が見られます。子どもが1～2歳になるまで母乳育児を続けることは、富裕な家庭や、都市部、教育水準の高い母親の間で比較的少ない一方、子どもに固形食を与えることや最低食多様性水準を実行している割合は、最貧困家庭や地方・農村部、または教育水準の低い母親の間で著しく低くなっています。このような栄養データは一層の精密化と質の向上が必要ですが、対策を促すにはすでに十分そろっています。

# 各国政府、企業、市民社会は、**食料および保健医療の両システムにおける不公正に対処**することを通じて、あらゆる形態の栄養不良への取り組みを強化する必要があります



現在、多大な障壁のために健康的な食生活と暮らしを実現できずにいる人は、数百万人に上ります



最近の分析によれば、世界や国レベルのパターンでは見えてこない深刻な格差が各国・各コミュニティの内部にあり、最も脆弱な集団が最も深刻な影響を受けています

最貧国では低体重問題が続いており、その割合は富裕国の最大10倍です。一方、富裕国では、過体重と肥満が最大5倍の勢いで拡大しています。



子どもに固形食・半固形食や柔らかい食べ物を与えることや、最低食多様性水準の実践は、最貧困家庭や地方・農村部、または教育水準の低い母親の間できわめて低率です。

貧しい食生活とそれによる栄養不良は、単なる個人的選択の問題ではありません。健康的な食生活や良質の栄養ケアを、ほとんどの人は利用することができません。

食料システムと保健医療システムの変革が必要

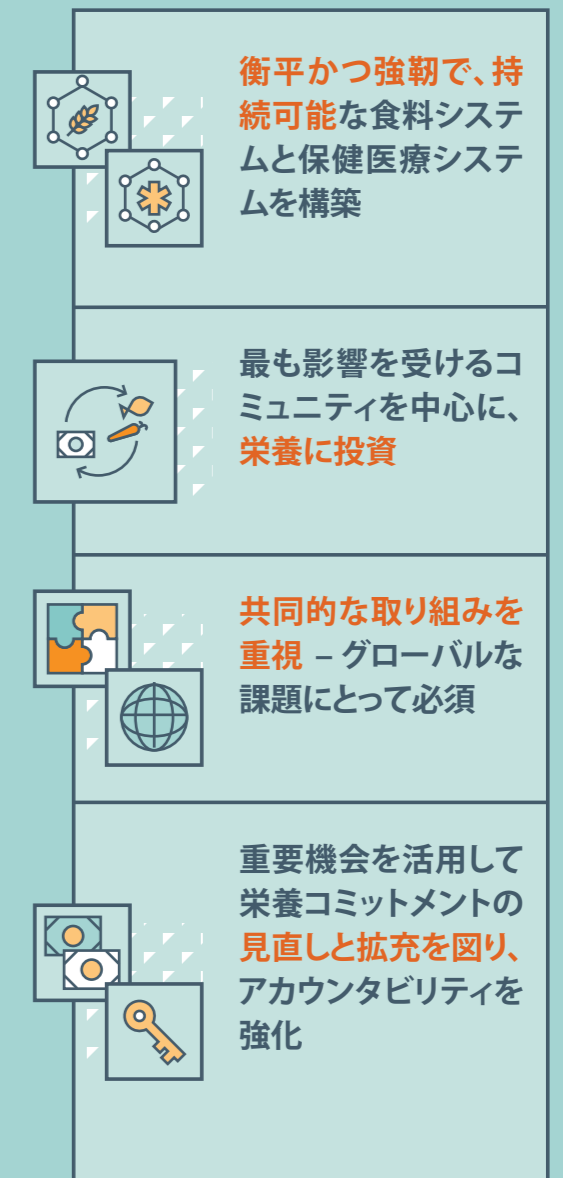


食料システムの格差に取り組み、健康的で持続可能な食料をすべての人にとって最も利用しやすい選択肢にしなければなりません。



栄養を保健医療システムに完全に組み込み、予防的・治療的な栄養ケアを広く一般的に利用可能なものにする必要があります。

**今こそ行動する時です。**ステークホルダーは連携して、栄養不良の根絶への前進を妨げている障壁を克服する必要があります。



## 食料・保健医療の両システムにおける不公正への取り組み

貧しい食生活とそれによる栄養不良は、現在の最大の社会的課題の一つとして、健康、経済、環境に多大な負荷をかけています。この世界的規模の栄養危機を公平に解決するには、食料と保健医療の両分野に重点をおき、これら二方向の取り組みを大きく軌道修正していく必要があります。

第一に、生産から消費までの食料システムにおける格差に取り組まなければなりません。現在の食料システムのもとでは、人々は健康的な食の選択を行うことができません。今日、大多数の人々が健康的な食生活をまったく実現できていません。その理由は複雑です。現行の農業システムは概して米、小麦、トウモロコシといった主要穀類の過剰生産に重点がおかれ、果物、木の実、野菜といったより多様で健康的な食料の幅広い生産を行っていません。また安価な高度加工食品が普及し、さかんに宣伝されています。その売上は高所得国で依然として大きいものの、上位中所得国と下位中所得国でも急速に伸びています。

気候変動危機は食料システムの再検討を迫っています。そしてこのことは、これまでのアプローチを変え、健康的かつ持続可能な方法で生産された食料をすべての人にとって最も利用しやすく、安価で望ましい選択肢にする好機でもあります。新たなアプローチは、マイノリティ集団の発言力を強化し、食料が人間の健康だけでなく環境に対してもたらず真のコストにも目を向けるものでなければなりません。それと同時に、食料システムのあらゆる要素に対応するため、具体的な文脈のなかでセクター横断的に取り組むことが必要です。

第二に、栄養格差の問題は保健医療システムにおいても取り組む必要があります。現在、あらゆる形態の栄養不良が健康障害と死亡の最大の原因となっており、食生活関連の非感染性疾患の急増で各国の保健医療システムに非常な負担がかかっています。その一方、予防や治療のための良質な栄養ケアは、大多数の人々にとって利用不可能または高額過ぎて手が届きません。2017年に重度急性栄養不良に苦しむ5歳未満の子どもの数は世界全体で1,660万人に上りましたが、治療を受けられたのはわずか4分の1でした。このように許容しがたい問題に対処する差し迫った必要性が明らかとなっています。各国の保健予算において栄養関連サービスへの支出はきわめてわずかですが、これによって費用効果を高め、長期的に保健医療費の低減につなげていくことが可能です。現在のところ重点がおかれているのは低栄養ですが、栄養の専門家が携わるケースはまれです。また健康記録や健康診断は、例えば食生活の質や食料確保に関する評価を通じたスクリーニングやモニタリング、栄養不良の治療には適したものとなっていません。

すべての人に保健サービスを保障するユニバーサル・ヘルス・カバレッジへの世界的なコミットメントは、各国の保健医療システムに栄養ケアを完全に組み込むための機会です。必須の栄養サービス（予防と治療）は、それを最も必要とする人々に重点をおきつつも、すべての人が普遍的に利用できるものでなければなりません。機能的で強靱な保健医療システムを構築するには、多様なセクター間の強力なガバナンスと連携が鍵となります。栄養ケアを保健医療システムの主流に組み込み、拡充すれば、大勢の命を救うとともに莫大な保健医療支出の削減も実現できます。

食料・保健医療の両システムにおける不公正に取り組まない限り、あらゆる形態の栄養不良を終わらせるための改革は実現できません。

## 栄養改善に向けた投資

国際栄養目標の達成と栄養不良の根絶に必要な取り組みを強化することは、あらゆるセクターおよび国々が共同で担うべき責任です。各国政府による国内向け財政支援は、持続的な改善を確実にする上で不可欠です。そして同時に、国際的な援助国政府・機関も、政府が効果的な対応への財源を欠く部分で取り組みを補強していく責務があります。

これまでは低栄養問題への取り組みに重点的に投資が行われてきました。その結果、発育阻害の規模は次第に縮小し、ある程度の成果が見られました。しかし対照的に、過体重と肥満は急増しています。また過体重・肥満・その他食生活関連の非感染性疾患に対する財政支援の格差も広がっています。各国は、栄養不良問題の両面に同時に取り組んでいく基盤を整えなければなりません。

---

栄養への投資は公平性の観点から検証する必要があります。ニーズに対応した投資を行い、その額は問題の規模に比例したものであるべきです。既存の財源を補完する新しい資金メカニズムを積極的に構築していくことが必要です。また栄養格差は国家間にも、コミュニティ内部にも存在します。したがって、ニーズに対応した資源配分の決定は、根拠にもとづく費用効果の高い解決策を通じ、国内地方レベルの精密なデータにもとづいて実施する必要があります。さらに公平性を優先した栄養投資を行うには、調整が不可欠です。必要な資源やプログラムを、最も影響を被るコミュニティと人々に向けてすることで、栄養不良の根絶へのより迅速で公平な進捗が可能となるはずです。

## 栄養の公平性を実現するために不可欠な行動

食料は重要な地球規模課題であり、健康、公平性、持続可能性、経済、そして生活にとって重大な問題です。各国政府、企業、市民社会はより健康的で公平な食料および保健医療の両システムに責任を果たすべきとの認識が世界的に高まっており、これは私たちが将来を守るために栄養に投資する一つの好機となっています。今後2年間、政策アジェンダにおける栄養の優先度を高め、現在の食料システムおよび保健医療システムを再検討する重要な機会がいくつも訪れます。例えば、東京栄養サミット、国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）（2021年に延期）、食料システム・サミット2021などです。

すべての人々、特に栄養不良の影響を最も被っている人々が、健康的で手頃な値段の食料と質の高い栄養ケアを容易に利用できるよう優先的に行動していくことが、各界のリーダーに求められています。各国政府は各セクターのステークホルダーと協力しつつ、栄養不良の根絶への進捗を妨げるさまざまな格差を克服していかなければなりません。栄養の公平性を実現し、あらゆる形態の栄養不良を終わらせるのに必要な大々的な変革のためには、食料システム、保健医療システム、そして資金動員の3つの重要分野に重点をおく必要があります。『世界栄養報告』では具体的な行動として以下のことを提案します。

### 食料システム

健康的かつ持続可能な方法で生産された食料を、すべての人にとって最も利用しやすく、安価で望ましい選択肢にするには、さまざまなセクターが協働して、栄養を食料システムのあらゆる要素の主流に組み込んでいく必要があります。

- 国およびコミュニティレベルで、なおかつセクターを超えて、すべての人の健康的な食生活を支援するために、生産から消費にいたるまで、規制と政策の強固な枠組を導入すること。
- より多様で健康的な食料が幅広く生産されるよう、農業補助金を最適化し公共投資を拡大すること。
- 特に健康的な食料へのアクセスが困難な、あるいは支援の届きにくい集団を念頭において、生鮮食品配送のための公共輸送計画およびサプライチェーン短縮化を支援すること。
- 健康的で持続可能かつ公平な食生活を支援するために、財政、食品改良、学校・職場における施策、製品ラベリングおよびマーケティング等に関して、根拠にもとづく食料政策を実施し、モニタリングおよび評価を行うこと。
- 食品産業に対し、より健康的で持続可能性の高い食品の生産とマーケティングのメカニズムの強化を通じて、アカウンタビリティを果たすよう求めること。
- 重要な栄養問題に対処し、費用効果の高い解決策を特定し、技術革新を促すために研究費を拡充すること。

---

## 保健医療システム

命を救い医療費を削減するためには、各セクターが協働し、既存のインフラの活用と新技術の導入を通じて基本的な保健医療システムの主流に栄養を組み込んでいく必要があります。

- 費用計算にもとづく栄養ケア計画の作成を通じて、保健医療サービスの一部としての栄養サービスを展開し、過体重・肥満・その他食生活関連の非感染性疾患を含むあらゆる形態の栄養不良を対象としたものに拡充し維持すること。
- 人材に投資し、栄養分野の有資格の専門家を増やして、良質な栄養ケアの利用格差をなくすこと。
- 利用格差の軽減のために多種の医療従事者を活用し、そのパフォーマンスを教育と能力開発の機会を通じて強化すること。
- 栄養関連の健康製品（治療食など）や、革新的技術によるソリューション（栄養デジタルカウンセリングなど）を、特に支援が届きにくい遠隔地のコミュニティと協働する場合ははじめとして、適宜導入すること。
- 予防的・治療的な栄養サービスを提供し、必要性が高い人を特定できるよう、健康記録および健康診断を栄養ケアのために最適化すること。
- コミュニティレベルにおいて定期的・体系的かつ衡平性の観点に立った栄養データを収集するとともに、実証性を高め、的をしぼった優先順位付けに役立つ情報となるよう、主要な人口特性で細分類すること。

## 栄養に関する調整、資金動員、およびアカウンタビリティ

栄養不良の影響が最も大きいコミュニティと人々に財源等の資源やプログラムを向けるための補完的な資金動員、およびアカウンタビリティのメカニズムを、各セクターは協力して構築する必要があります。

- 低栄養とならんで、過体重・肥満・その他食生活関連の非感染性疾患も含めて、栄養不良の影響が最も大きいコミュニティのニーズに対応するために国内の資金動員を拡大すること。
- 資金の流れに関するデータ強化のためにデータ管理システムに投資し、国内の栄養優先事項との整合を可能にすること。
- 栄養に関する国際的な資金動員と調整を、特に脆弱な紛争地域や国内資金動員の可能性が限られている国々など、最もニーズの大きい人口集団に的を絞って拡大すること。
- 食料および保健医療の両システムにおける権力の不均衡を正し、これらシステムにおける不均衡の起因者に責任を課すために、ガバナンスとアカウンタビリティの国際的システムを確立すること。
- 栄養の衡平性の実現のため、協調行動に関する対話を支援する空間を確立するとともに、構想から評価までのコミュニティの関与を求める行動を通して政治の感受性を高めること。
- 食料、保健医療、教育、社会的保護における課題を特定し、栄養の改善に対する障壁を取り除くため、状況評価を実施すること。

私たちは今すぐ行動する必要があります。財源を整え、調整力を高め、アカウンタビリティを果たさなければなりません。国際栄養目標を達成すれば、すべての人がより健康的で幸福な生活を手にできるようになります。東京栄養サミットで一段と機運を高めることで、そのような成功が実現可能となります。

『世界栄養報告』(GNR)は、世界全体の栄養問題をテーマとする世界で最も優れた独立的评价です。利用可能な最良データ、詳細な分析、根拠にもとづく専門家の意見を提供し、栄養問題において緊急に必要なとされている行動を促します。

GNRは世界の数々の機関で構成されるマルチステークホルダー・イニシアチブであり、栄養分野の専門家が主導しています。第一回栄養(Nutrition for Growth : N4G)サミット開催後の2014年に設立され、国際栄養目標を基準とした改善状況、およびその達成に向けたコミットメントを追跡するアカウンタビリティ・メカニズムとして機能しています。

包括的な調査報告、インタラクティブな国別栄養データ、N4Gコミットメント追跡機能を通じて、GNRは栄養不良がもたらす問題を明らかにするとともに、取り組みの進捗状況と世界の栄養不良根絶のための現実的解決策を提示します。

GNRはコミュニティのために、コミュニティと協力して活動しています。栄養問題の議論への情報提供を通じて行動を促し、いかなる形態の栄養不良もない世界の実現を目指します。

本エグゼクティブサマリー日本語訳のレビューにあたっては、独立行政法人国際協力機構(JICA)とセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)の協力を得ました



@GNReport



/globalnutritionreport